

琵琶湖とその水辺景観

祈りと暮らしの水遺産

「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産」は、湖辺の集落や湖中の島で育まれてきた水と人との営みが調和した文化として日本遺産の認定を受けています。

水を豊かに湛える琵琶湖の周辺では、今日でも信仰が深く、琵琶湖と共に暮らす中には、日常の生活に山からの水や湧水を使いながら、水を汚さない文化が伝わっています。

今回追加認定された「芦浦観音寺」「草津のサンヤレ踊り」も水と共に祈りと暮らす風景が残ります。



芦浦観音寺

所 芦浦町363-1

申 見学は要予約。電話で(☎568-0548)

草津市の北部、東は中山道の守山宿、西は草津三港の一つである志那港に出る水陸両交通の要衝に立地しています。

戦国時代から江戸時代にかけて、8世賢珍・9世詮舜・10世朝賢が住持を務めたときに大きく飛躍しました。特に詮舜、朝賢は、それぞれ豊臣秀吉、徳川家康の下で代官・船奉行として活躍しました。境内には阿彌陀堂や書院などの重要文化財や蔵・門などが所在しています。

今に残る寺の外観は、近世城郭を思わせる特異な形で、表門を中心に石垣が築かれ、周囲には土塁が巡ります。境内全体を囲う堀は、水路で琵琶湖へとつながるなど、水と暮らしが密着する往時の姿を今も見ることができます。

志那

中学2年生から25歳までの男子で構成され、太鼓打ちなどが白い法被に黒い帯を締めた衣装をまとう。(志那神社ほか)



志那中

中学1年生から24歳までの男子で構成され、衣装は白い法被だが、役によって赤や黄などたすき掛けの色が異なる。(惣社神社)



吉田

数え年15～25歳の男子で構成される。衣装は白い法被だが、太鼓打ちは、たすき掛けなどをする。踊りと謡の速度変化が特徴的。(三大神社)



下笠



小学生以下の男子が中心となり、成人男性と共に踊る。子どもたちは華やかな衣装に花笠をかぶり、眉間に朱をつける。大人は飛龍紋や波文様が入った衣装で踊る。(老杉神社ほか)

矢倉



2年に一度行われ、稚児と呼ばれる幼児と小学生の男女、成人男性が踊る。子どもの衣装は華やかで、桃色基調の花笠をかぶり、大人は袴を着る。宵宮に他の地域では見られない笹踊りが見られる。(若宮八幡宮神社内、立木神社ほか)

草津のサンヤレ踊り

5月3日に市内の7地域で行われているサンヤレ踊り。太鼓や笛などの楽器を持ち踊り、笛や扇子などの採り物を持った者が取り囲み囃し歌うもので、リズムミカルな短い詞を繰り返す歌詞の中に「サンヤレ」という囃子詞があります。

芦浦観音寺の湖上支配の拠点であり、湖上交通の要衝であった志那港に通ずる集落で、水難や水害などの災いや疫病を追い払うため、室町時代から行われている祭事です。地域で大切にされている水を敬い、水の恵みから得られる農作物の五穀豊穡を祈ります。地域で水と共に祈りと暮らしを見ることが出来る資産です。

長束



3年に1度行われる。小学1～2年生の男女が太鼓打ちを務め、花笠に手甲、脚半、長着に三色(赤・青・黄)のたすきを掛け、腰に印籠などを付ける。他は、黒襟のついた白の法被に黒の地下足袋を履き、太鼓受けは二色(桃色・緑)のたすきを掛けをする。(印岐志呂神社)

片岡



25歳までの男子で構成され、衣装は黒襟のついた白い法被だが、太鼓打ちは友禅染の裂地を用いた法被。(印岐志呂神社ほか)

草津からスゴ遺のでき展

鑄型公開、日本遺産パネル展

📅 6月16日(土)～7月16日(月・祝)

📍 草津宿街道交流館(草津三、☎567-0030、☎567-0031)

9:00～17:00(月曜、祝日の翌平日休館)

🎫 通常の入館料

詳しくは
公式サイトへ!



えふえむ草津ラジオ放送

くさつNOWで月1回放送中の立命館大学放送局によるコーナーで、わかりやすくお伝えします。詳しくは、9ページをご覧ください。

📅 7月4日(水)[再放送7月7日(土)]

